

第7回マザーレイクフォーラムびわコミ会議の結果概要

◇開催概要

日 時： 平成29年（2017年）8月26日（土）
＜第1部＞10:00～12:00 ＜第2部＞13:15～16:30

場 所： コラボしが21（滋賀県大津市打出浜2-1）

主 催： マザーレイクフォーラム運営委員会・滋賀県

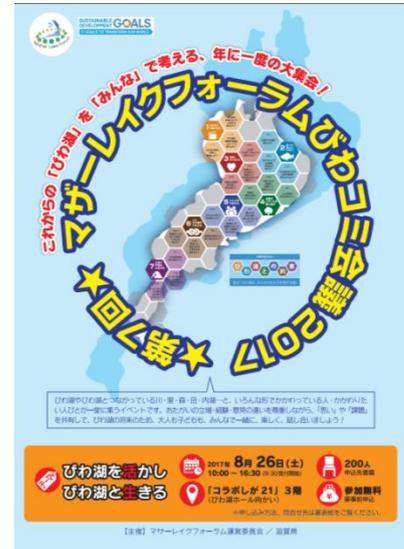
参加者： 211名

参加団体： 88団体

ブース出展団体数：27団体

テーマ：『びわ湖を活かし びわ湖と生きる』

内 容：



【第一部】みんなつながる報告会 10:00～12:00

ナビゲータ・川本勇（ユーストン）と佐藤祐一（琵琶湖環境科学研究センター）による進行のもと、「びわコミ会議」が開幕した。



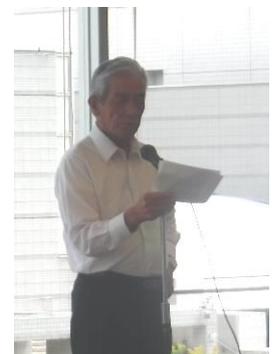
1 開会挨拶

○松沢松治（マザーレイクフォーラム運営委員会委員長）

…今年は、びわ湖せっけん運動から40年、琵琶湖周航の歌誕生から100年の節目の年。今年は全国でさまざまな自然災害が起きているが、びわ湖も例外ではない。漁師を何十年続けてきて初めての異変も起きている。そのようなことも含めて、びわ湖への思いや人々とのつながりを深めてもらいたい。

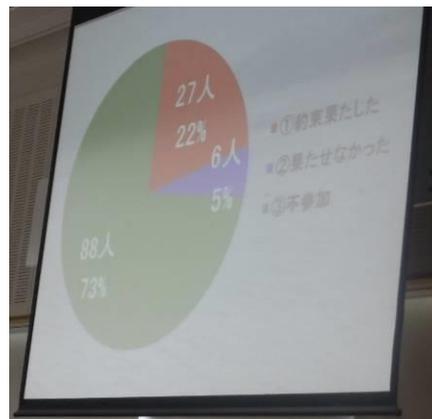
○西嶋栄治（滋賀県副知事）

…今年は未曾有のアユの不漁が起き、県としても原因究明につとめるとともに、緊急放流などの対策を行った。今年は、知事が「びわ湖新時代」と銘打ち、また都道府県知事として全国で初めて「SDGs」への取組を宣言した。今日をきっかけに、多様な皆さんと一緒に取り組んでいきたい。



2 昨年度のコミットメント

昨年度のびわコミ会議で各自が書いたコミットメント（約束）を、この1年間で果たすことができたかどうか会場アンケートを行ったところ、昨年度の参加者のうち8割以上が「約束を果たした」と回答。個別インタビューからも熱心に活動に取り組んで来られた様子が伝わってきた。また、今年初めて参加した人が参加者全体の7割以上と非常に多く、世代交代や今までになかった層からの積極的な参加がうかがえた。



3 「びわ湖なう」

「びわ湖なう」と題して、参加者に配布された「びわ湖と暮らし2017」をもとに、びわ湖の現在の状態について、特にこの1年間に特徴的なトピックについて、石河康久（滋賀県琵琶湖環境部次長）より報告した。特に、（1）ビワコムシの大発生、（2）特定外来生物オオバナミズキンバイの増殖、（3）アユの記録的不漁について話題を取り上げて解説した。

県からの報告の後、漁師、研究者、学生ボランティアなど多様な立場の参加者からもびわ湖の現状についての報告や意見があった。



4 「琵琶湖保全再生計画について」

引き続き、今年3月に策定した「琵琶湖保全再生施策に関する計画」の概要について、石河康久（滋賀県琵琶湖環境部次長）が解説した。

5 「みんなつながる報告会」～活動団体4団体からの報告

次に、以下の4つの団体からの活動報告を行った。

① 淡海を守る釣り人の会（津熊 操）

“「釣り人による清掃活動」とは”

② 生物多様性 湖東地域ネットワーク（松宮 秀典）

“トンボ79大作戦～湖東地域のトンボを救え！～”

③ 葭留（佐久川 長久）

“ヨシと造形”

④ ビワイチ推進室（津田 誠司）

“ビワイチの推進について 自転車でバッチリ楽しむ滋賀・びわ湖～ビワイチサイクルツーリズム～”





各団体からの報告の後、それぞれの報告内容に関連するデータを提示し、3人のコメントーターが、県や学術フォーラム等の立場からコメントを行うとともに、会場も交えた質疑応答を行った。

コメントーター

- ・西嶋栄治（滋賀県副知事）
- ・井手慎司（マザーレイク 21 計画学術フォーラム委員）
- ・村上 悟（NPO 法人碧いびわ湖）

6 「寄付金受領式」

午前中の最後は、今年3月にマザーレイクフォーラム運営委員会へご寄付をいただいた「びわ湖チャリティー100km 歩行大会実行委員会」「びわカングルフコンペ」「Flower Produce ichica」の3団体の代表者をお招きして、マザーレイクフォーラム運営委員会委員長長の松沢松治に対し目録を贈呈いただく寄付金受領式を行った。各寄付団体より、それぞれの取組もご紹介いただいた。



【昼休み（ブース展示）】 12:00~13:15

25 団体からブース出展があり、参加者は昼休みの時間を利用して各ブースを見て回りながら、思い思いに出展者との交流を深めたり、情報交換を行った。



【第二部】びわ湖のこれから話さへん？ 13:15~16:30

1 知事挨拶

○三日月大造（滋賀県知事）

…今年「びわ湖のために山とアユ」というコミットメントを掲げて、水源の山々の木や暮らしに、そして今年激減したびわ湖のアユに、思いや関心を寄せ、そのことを大切にする1年にしたい。今日をきっかけに、いろんな意見を交わしていただき、皆さんの行動が変わる、そんなひとときにしていただきたい。



2 グループ討論

下記のテーマ別にグループに分かれて話し合いを行った。まず、話し合いの進め方や留意点等について、司会より説明を行った。続いて、各グループの担当者が紹介され、各担当者が簡潔に各グループのテーマのポイント等を説明した。



- [1] 中野隆弘（びわ湖エコアイデア倶楽部）・津熊操（淡海を守る釣り人の会）
「釣り人」で活かす…びわ湖への恩返し、感謝の気持ちを込めて
- [2] 松宮秀典（生物多様性湖東地域ネットワーク）
「湖東地域の連携」を活かす…湖東地域のトンボを守るため、市民・団体・企業ができること
- [3] 佐久川長久（葭留）・幡野真隆（滋賀県琵琶湖政策課）
「ヨシ」を活かす…話そう！ヨシの使い方
- [4] 津田誠司・大崎康文（滋賀県観光交流局ビワイチ推進室）
「ビワイチ」で活かす…あなたは何でびわ湖を感じますか？
- [5] 深井鉄平・藤本夏弥（滋賀県琵琶湖保全再生課）
「学び」を活かす…琵琶湖で学ぶ・琵琶湖を学ぶ
- [6] 馬場葵（滋賀学生コミュニティ kaname）
「若者の力」を活かす…若者が滋賀の魅力を発信していくためには？
- [7] 藤田始史・野田晃弘（琵琶湖・淀川流域圏連携交流会）
「琵琶湖の魅力」を「国際化」に活かす…海外に琵琶湖の魅力を伝えるには？
- [8] 奥田昇（総合地球環境学研究所）
「水草」を活かす…どうする？びわ湖の水草問題！
- [9] 壺井克弥（滋賀県流域政策局流域治水政策室）
「水害」と生きる…どうやって水害から命や財産を守る？
- [10] 佐々木和之（環境フォーラム湖東）・佐藤祐一（琵琶湖環境科学研究センター）
「地域フォーラムとのつながり」を活かす…地域フォーラムの現状と今後に向けて
- [11] 青田朋恵（滋賀県農政課世界農業遺産推進係）
「びわ湖と農業（農林水産業）」を活かす…びわ湖と共生してきた滋賀の農林水産業を世界遺産に！
～魅力をみんなで語り合おう～
- [12] 中井克樹（滋賀県自然環境保全課）・岡本佳奈（IVUSA）
「外来種」と生きられるか？…びわ湖における外来種問題をどうするか？

〔13〕 村上悟（NPO 法人碧いびわ湖）

「せっけん運動」を活かす…せっけん運動40周年「未来のセンタク」循環する暮らしへ

〔14〕 藤田知丈（東草野まちづくり懇話会）

「水源の森」を活かす…びわ湖水源の里山林を守り活かす自伐型林業

〔15〕 嘉田由紀子（びわこ成蹊スポーツ大学）

「琵琶湖周航の歌」を活かす…琵琶湖周航の歌100周年にちなんだ「なぞり周航」と「びわ湖音楽祭」

各グループの参加希望人数を事前に把握するため、旗挙げによるグループ分けを行った。サブ会場も含め、1グループあたり6人～15人の合計15グループに別れて、それぞれ80分にわたって話し合いを行った。各グループ内のファシリテーターの進行により、参加者同士がそれぞれのテーマについて活発に議論を深めた後、最後に「キーセンテンス」をとりまとめた。



3 私のコミットメント

グループでの話し合いを終え、メイン会場に戻ってきたところで、これから1年間、自分がびわ湖のために何をするかを宣言する「私のコミットメント（＝約束）」を参加者全員にフリップに記載してもらい、一斉に掲揚した。



4 第二部まとめ

15 グループの代表者が登壇し、グループ内での話し合いの様子と、各グループでとりまとめた「キーセンテンス」を発表した。司会者がフロアからも追加の意見を聞き出し、それぞれのテーブルで話し合われた内容を参加者全員で共有した。

最後に、全員で「琵琶湖周航の歌」を大合唱し、司会者より閉会が告げられて、第7回びわコミ会議が終了した。(16:30)



○「びわ湖との約束 キーセンテンス 2017」

- [1] 世界一の湖びわ湖でカッコイイ（つり）人になる！
- [2] とんぼをモノサシにして、楽しく、わかりやすく地域とつなげる
- [3] もっと身近に！もっとオシャレに！もっと楽しく！
- [4] ビワイチで活かすびわ湖と地域の資源
- [5] 遊んで体験+昔のはなし+科学的調査と教育
- [6] 受信力と発信力 楽しみながら活動するとアンテナどんどん広がる！！
- [7] 日本といえば、東京、京都、富士山、「びわこ！」
- [8] 水草とのよりよいつきあい方を見つけよう！
- [9] 水のこわさと先人の知恵を知り、水害と生きられる人を育てよう！
- [10] 連携の目的をより具体的にして地域フォーラムを盛り上げよう
- [11] 子どもや若者など次世代に伝える びわ湖と強制する農林水産業の魅力
- [12] みんなで賢く我慢をしよう
- [13] 体験・インパクト・コラボレーション “洗って楽しい未来のセンタク”
- [14] 50年先の生き方は、森のなかにある。「体験」を「観光」に、「観光」を「暮らし」に。
- [15] 美は乱調にあり～異なるものの融合～